科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四半位时间	2	2	学 年	二年次
建築材料	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	田原 慶
		十中亚时间	40	40	実務経験	無

学習の到達目標	建築物を構成している諸材料の性質、建築物の用途や機能に適した材料 選択、構造材や仕上材の使い分けなど建築材料全般に対して、基本的特 性や力学的特性、建築物における利用例などを含めて講義する。
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅲ 構造 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅲ 構造 問題解説集』
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

<u> 1 /3人/1只日 1 1 1 1 1 1 7 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(+>00/010
35.44.26.44	試験点数	80 %
	学習活動への取り組み	20 %
前期•後期		%
		%

(14 は、 計画と文() 3000// (15 は、 (子則 第0未) //				
/巨冠/正	課題•提出物	80 %		
	学習活動への取り組み	20 %		
仮評価		%		
		%		

5 学習計画及び評価方法

		学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
	74		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
	前	①セメント・骨材・コンクリート	5	・鉄筋の形状・性質、セメントの種類・性質、骨材の種別、コンクリートの構成を学び、鉄筋コンクリート構造の長所・短所を理解する。	①~②
第			6	・コンクリート打込み時に生じる現象・打込み欠陥や、ヤング係数・調合の求め方を理解する。	試験
舟		②鋼材	7	・鋼材の性質・線膨張係数や、炭素含有量と焼き増しによる性質の変化を理解する。	
	期		8	・鋼材の破壊性状・ヤング係数・線膨張係数や、鋼材の種別を理解する。	
			9		
	str	③建築材料	10	・セメント・骨材・コンクリートと鋼材に関する問題を出題・解説行い、さらに理解度を高める。	
学	後		11	・ガラスの種類・加工品の種類を実用例と共に学び、用途に合わせたガラスを理解する。	
			12	・石材の分類・性質・張石工事の構法を理解する。・左官材料の 気硬性・水硬性の違いや、主原料の性質を理解する。	3
年			1	・陶磁器の瓦とタイルの種類・性質を理解する。・塗料の分類・構成や、素材別に見た塗料の性能を理解する。	試験
	期		2	・接着剤の用途・特徴を理解する。防火・断熱・防水・屋根葺材料の主な材料の特徴を理解する。建築材料全般の問題を出題・解	
	炒		3	説を行い、さらに理解度を高める。	

6 特記事項 授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショとビデオ等を多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築設計製図Ⅱ		四中位时间	0	6	学 年	二年次
	演習	年単位時間	前期	後期	教 員	玉城/田原
		十半世时间	0	120	実務経験	有

学習の到達目標	設計製図の総合的な知識と技術を段階を迫って学習させる。
使用教科書•副教材等	・日建学院『2級建築士 設計製図 基礎テキスト』 ・プリント実施図面
教員実務経験	玉城 恵美:建築設計業務、建築設計監理業務 田原 慶:無

2	追試驗其淮
7.	1日記録 長代

前期試験	
後期試験	

3 補習授業基準

1114 1 42 42 1 4	
前期	
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

			(°) 00 /01 <u>~</u>
		提出物	80 %
後期	学習活動への取り組み	20 %	
		%	
			%

1101 H E 2		(1)(1/	130/10///
			%
信証無			%
似計៕			%
			%

5 学習計画及び評価方法

		学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
	前		4		
	日川		5		
第			6		
			7		
_	期		8		
	791		9		
	後	①木構造	•	2級建築士製図試験を題材に ・エスキス ・1階平面図兼配置図・2階平面図 ・2階床伏図兼1階小屋伏図 ・立面図 ・矩計図(部分詳細図) 作図技術を習得させる。	①~2
年	期	②鉄筋コンクリート構造	•	2級建築士製図試験を題材に ・エスキス ・1階平面図兼配置図・2階平面図 ・立面図 ・断面図 ・矩計図 作図技術を習得させる。	課題

6 特記事項

関連授業として、CAD演習Ⅱ、卒業研究、建築計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規Ⅰ・Ⅱ

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四中位时间	2	2	学 年	二年次
CAD演習Ⅱ	演習	年単位時間	前期	後期	教 員	玉城/宮城
		十中世时时	40	40	実務経験	有

	CAD演習 I の応用編として設計の一連の流れに沿ってCAD技術を習得する。
	プリント『実施図面』 全国建築CAD連盟 建築CAD検定試験問題集
教員実務経験	玉城 恵美:設計業務、現場監理業務 宮城 純 :設計業務、現場監理業務

2 追試験基準

_ (_, , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

	l .
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条》

			· • > O O / (,,,,
	前、後期課題成績	80	%	
	益期,後期	課題・学習活動への取り組み	20	%
	前期•後期			%
				%

· птот, птыс >		120/10//
仮評価	課題•提出物	80 %
	学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

		学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
	**		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
第	前	① CAD検定試験対策 ② 鉄筋コンクリート造 2階建て専用住宅	5 6 •	建築CAD検定試験2・3級の過去参考図をもとに一定時間内に正確にトレースし完成させるスキルを習得させる。実施図面を基に、これまでの基本操作を用いて、図面の作図を習得させる。 ・平面詳細図	① 課題
	期		8 •	・展開図・階段詳細図	課題
学	後	② 施工図等	10 • 11 • 12	実施図面を基に、これまでの基本操作を用いて、図面の作図を習得させる。 ・平面詳細図 ・施工図 ・床伏図 ・ラーメン図	
年			1	•配筋図	課題
	期		3		

6 特記事項

関連授業として、CAD演習Ⅱ、建築設計製図Ⅱ

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四	6	0	学 年	二年次
卒業研究	演習	年単位時間	前期	後期	教 員	玉城/田原
		十中世时间	120	0	実務経験	有

学習の到達目標	建築計画・建築法規・建築構造・建築施工・建築設計製図等に大別される建築学の各研究知識を再検討しながら、将来建築界への建築技術者として一歩踏み出さんとする学生たちが協調性や責任感のある創造力を活かした作品づくりを目指す。
使用教科書·副教材等	・月刊誌『新建築』『商店建築』その他関連雑誌等 ・CADソフトやプレゼン関連ソフトウェアなどの活用
教員実務経験	玉城 恵美:建築設計業務、建築設計管理業務 田原 慶:無

2 追試験基準

前期試験	
後期試験	

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

	/////ALTIM *//		(*> 00 /010
	前期	レポート・提出物	80 %
		学習活動への取り組み	20 %
			%
			%

<u> </u>	といることがてさなく、(子則)	わり木 / //
仮評価 -	課題•提出物	80 %
	学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

	学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
	ķ		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
	前	①卒業研究の概要説明	5	卒業研究の主旨説明し、課題内容『自由テーマによる建築設計』 についての理解させる。	
第		②企画・調査・エスキス		建築物の計画用地及ぶ用途の決定を行う。敷地周辺の環境調査することで、建築物と環境との融合性を考慮することを理解させる。光、熱、空気、音、水等の環境と人間の五感を用いて、これらの複合環境を総合的に評価した計画の必要性を理解させる。建築設備にかかる負荷を減少させ、省エネルギー効果を考慮し計画を行う。CADを活用することで、『精度の	①~③ 課題
1	期	③CADによる図面作成	8	高い図面がかける』『修正変更等が容易』『保管や検索が容易にできる』 などを理解させる。 CADは、製図を支援する道具として利用するもので、創造や判断は人が 行うという基本理念を理解させる。	
	\$\$		10		
学	仮		11		
F-			12		
年			1		
	期		2		
	别		3		

6 特記事項 県内外における優れた建築物の見学。 マンションやアパートなどの完成見学会への参加。 建築基準法における避難施設等の対処。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四年江时间	3	3	学 年	二年次
実習Ⅱ	実習	年単位時間	前期	後期	教 員	具志/長嶺
		十年证时间	60	60	実務経験	有

学習の到達目標	建築物の高低や位置を示すやり方の技術を知る、足場の組み方を知る、 鉄筋、型枠の加工、組立を知る、木工事での加工、組み立てを知る。 工具の取り扱いを知り、安全留意事項を知る。
使用教科書·副教材等	・プリント(実施図面) ・日建学院『2級建築士学科 学科IV 施工 受験テキスト』
教員実務経験	具志 悦雄 :建築設計業務、建築施工管理 長嶺 由喜 :電気施工管理

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

= 7/2 1/2 (P) IP4 · /	<u> </u>	/
	前、後期課題成績	80 %
	課題・学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

	1 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>
仮評価	課題•提出物	80 %
	活動への取り組み	20 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

	学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
	24.		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
第	前	 やり方 鉄筋加工・組み立て 	6	建築工事を行う上で、高さや位置、中心線を明示する(やり方)を 設置する技能を身につけ、それに関する専門用語を知る鉄筋の 種類、各部名称を知る。 鉄筋の加工・組立の仕方を理解。 定着・継手方法を知る。	①~③ 課題
	期	③ 型枠加工・組み立て・ 締め付け		型枠の加工・組立・締め付け法を知る。 型枠の取り外し時期を知る。 安全上の留意事項を知る。	
学年	後	④ 足場組⑤ 木造 主要部材の加工・組み立て 各種継手・仕口加工	•	足場の組立技術を修得し、安全確保の為の法律、基準を知る。 足場組が危険作業だと認識し、コミュニケーション能力を養う。 はりや柱、小屋組など主要部材である木材を図面に従って、接 合部などを加工し組立方を知る。 接合金物の使い方を知る。 工具の取り扱いを知る。	④~⑤ 課題
	期		2 3		

6 特記事項 やり方実習方法。墨出し、やり方の下地使用のベニヤ材12枚準備。 2m×3mほどの住宅を想定し、墨出しを行う。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
就職実務Ⅱ	講義	年単位時間	2	1	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	加藤勇
		十年证时间	40	20	実務経験	有

学習の到達目標	【前期】就職活動が始まるにあたり応募書類の作成や、企業訪問や面接時 の心得や対策を学ぶ。 【後期】内定企業が決まり社会人としての基礎的なマナーを学ぶ。
使用教科書·副教材等	【前期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー 【後期】図解まるわかり ビジネスマナーの基本 わった一社会人(副教材)
教員実務経験	両名専修学校での就職実務指導実績あり

2 追試験基準

前期試験	採点基準の50%未満
後期試験	採点基準の50%未満

3 補習授業基準

1114 42 42 1 4	
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期·後期	前・後期試験の成績	70 %
	能動的活動への姿勢	15 %
	出席状況	15 %
		%

<u>'4は、計画を支けることがてさない(子則第0米)//</u>							
		%					
信証無		%					
似計៕		%					
		%					

5 学習計画及び評価方法

		学 習 内 容	月	学習のねらい	考査範囲
	前		4	・休校(新型コロナウイルス感染症対策の為)	
	刊		5	・実践を想定した履歴書を作り上げる。	
第		【就職活動】 履歴書·面接対策	6	・企業説明会 ①面接対策&ビジネスマナー	1
		履 腔音• 固接对束	7	・面接の基本動作 ・正しい言葉遣い、敬語を身につける。	前期試験
_	期		8	・企業訪問の心得・内定につなげる志望動機を作り上げる。	
	朔		9		
224	丝		10	②ビジネスマナーの基本 ・ビジネスマナーの基本について学ぶ。	
子	後		11	・ビジネス会話について学ぶ。・接客と訪問マナーについて学ぶ。	
		【まるわかりビジネスマナーの基本】 ビジネスマナーについて	12	・パソコンメール等のビジネス文章について学ぶ。③社会人になるにあたって	2~3
年 		【わった〜社会人】 労働法	1	・労働法について・労働契約	後期試験
	期		2	・就業規則・退職・解雇・雇止め ・労働時間・休日・時間外労働	
	炒		3		

6 特記事項

科目名	授業方法		前期・後期	学 科	建築学科
		年単位時間	刊为广发为	学 年	二年次
企業研修	実習	十字匹时间	30	教員	玉城 恵美

実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続 学習の到達目標 的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要となる知識、技術及び技 能の修得を目的とする

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期·後期	研修成果報告書	50 %
	研修活動への取り組み	50 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

5		智計画及び評価方法 学習内容	月	学習のねらい	考査範囲
	盐		4	休校(新型コロナウイルス感染症対策の為)	
	前		5		
第			6		
	期		7		
_			8		
			9		(Ī)
学			10		
			11		
左	俊	①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	12	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実 かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	
年			1		
	期		2		
	NA1		3		

6	特記事項
O.	11T HI 1 TH P C

科 目 名	授業方法	─	前期	後期	学 科	建築学科
			1	2	学 年	二年次
建築計画Ⅱ	講義		前期	後期	教 員	玉城 恵美
			20	40	実務経験	有

学習の到達目標	建築空間の形と規模、空間どうしの繋がり具合等の技術基準を習得する。 その中で、人間生活と建築との関連において最も重要な住宅を中心に講義 する。	
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅰ 計画 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅰ 計画 問題解説集』	
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

<u> 1 /3人/1只日 1 1 1 1 1 1 7 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(+>00/010
	試験点数	80 %
前期·後期	学習活動への取り組み	20 %
刑刑 发剂		%
		%

<u>v :日は、計画でき</u>	えいることがてさない(子則を	わり木 / //
	課題•提出物	80 %
信並供	学習活動への取り組み	20 %
仮評価		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		学 習 内 容		学習のねらい	考査範囲
	前		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
		① 宿泊施設	5	・旅館、ホテルについての事項を理解させる。・機能を含めたゾーニング等や各空間における事項を理解させる。	
第		② 学校建築	6	・学校の運営方式についての事項を理解させる。・配置計画、ブロックプランなどについての事項を理解させる。	(1)~(4)
邪			7	・教室の計画についての事項を理解させる。	試験
_			8	・幼稚園についての事項を理解させる。	
	期	③ 社会福祉施設	9	・保育所・博物館・美術館・図書館・公民館についての事項を理解させる。	
学	44.	④ 事務所建築	10	事務所建築・コアプラン・事務室についての事項を理解させる。・カーテンウォールの目的などについての事項を理解させる。	
	後	⑤ 病院建築	11	・病院の特徴、病院建築の構成についての事項を理解させる。・病棟、診療部についての事項を理解させる。	
年		⑥ オーディトリウム	12	・特徴・音(騒音)・視線についての事項を理解させる。 ・断面計画についての事項を理解させる。	⑤~⑨ 試験
		⑦ 体育施設⑧ 商業建築	1.	・体育種目とコートとの繋がりについて事項を理解させる・商業建築についての基本事項を理解させる。	1 中心的大
	期	⑨ 駐車場	2 • 3	・モデュールと駐車計画について基本事項を理解させる。	

6 特記事項 授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四年证时间	3	3	学 年	二年次
建築施工Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	具志 悦雄
		十年证时间	60	60	実務経験	有

学習の到達目標	建築施工の実務的知識を得ることで、実際に活用できる能力を育成する。 建築施工の現場実務に関して、各工事別に施工計画、施工管理、躯体工 事について段階を追いながら基礎的知識と技術を習得させる。
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅳ 施工 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅳ 施工 問題解説集』
教員実務経験	建築設計業務、建築施工管理

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

- 1114 H 424214-	
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

- //\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		•
	後期試験点数	80 %
前期·後期	学習活動への取り組み	20 %
削剂 仮剂 		%
		%

<u>, под про</u>	c_{11}	13 0 2 1 5 / //
	課題•提出物	80 %
信証無	学習活動への取り組み	20 %
1)又計1Щ		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
	14.		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
	前	① 鉄骨工事	5	・鋼構造の躯体工事鉄骨の製作・加工・接合・建て方の作業手順 を考察するとともに、鋼材の耐火被覆工事について理解させる。	
第		② 組積工事	6	・組積工事の補強コンクリートブロック工事、塀工事、れんが工事の概要を理解させ、ALC工事の特徴と工法の要点を把握させる。	①~⑤ 試験
NA	-11-11	③ 木工事	7	・木構造の在来工法と枠組壁工法の組立手順を理解させる。 材料の性質を理解させ、木工事の施工と要点を把握させる。	
	期	④ 防水、屋根工事⑤ 左官・タイル・石工事	8	・防水・屋根・左官・タイル・石工事の概要と使用材料、工法等要点を把握させる。	
	44.	⑥ 建具・ガラス工事	9	・建具の種類(木製建具・アルミサッシ)、施工上の注意事項等要点を理解させ、ガラスの種類と取り付け方法の要点も把握させる。	
	後	⑦ 内装•断熱工事	10	・内装工事の概要や種類と工法について理解させ、下地と仕上げ材の工 法要点を把握する。・木造工事における断熱工事について理解させる。	
学		⑧ 設備工事	11	・給排水管の材料、設置方法等を理解させ、施工上の留意点、要点を把握し、電気設備、ガス検知器の取り付け位置等を把握させる。	
		⑨ 用語·機械·積算	12	・各工事の用語を理解させ、機械は、特徴、機械名等の要点を把握させる。 積算で使われる用語の意味を理解させ、土工事、躯体工事の要点を割り増し率の数値を含め把握させる。	⑥~⑪ 試験
年		⑩ 測量	1	・測量器具の取り扱いを確認させ、測量の種類と方法、特徴、器具の区 別を理解させ、平板測量での閉合誤差の調整を理解させる。	
	-14-P	⑪ 契約・仕様書	2	・工事契約、入札等の内容を理解させ、設計図書、建設業法を理解させる	
	期		• 3		

6 特記事項 授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四年位时间	1	2	学 年	二年次
建築計画Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	玉城 恵美
		十中亚时间	20	40	実務経験	有

学習の到達目標	建築空間の形と規模、空間どうしの繋がり具合等の技術基準を習得する。 その中で、人間生活と建築との関連において最も重要な住宅を中心に講義 する。
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅰ 計画 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅰ 計画 問題解説集』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

<u> 1 /3人/1只日 1 1 1 1 1 1 7 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(+>00/010
	試験点数	80 %
前期·後期	学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

(14 は、計画と文() 3 ここがくさな() (子則第0米)//			
仮評価	課題•提出物	80 %	
	学習活動への取り組み	20 %	
		%	
		%	

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
	前		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
		① 宿泊施設	5	・旅館、ホテルについての事項を理解させる。・機能を含めたゾーニング等や各空間における事項を理解させる。	
第		② 学校建築	6	・学校の運営方式についての事項を理解させる。・配置計画、ブロックプランなどについての事項を理解させる。	(1)~(4)
邪			7	・教室の計画についての事項を理解させる。	試験
_			8	・幼稚園についての事項を理解させる。	
	期	③ 社会福祉施設	9	・保育所・博物館・美術館・図書館・公民館についての事項を理解させる。	
学	44.	④ 事務所建築	10	事務所建築・コアプラン・事務室についての事項を理解させる。・カーテンウォールの目的などについての事項を理解させる。	
	後	⑤ 病院建築	11	・病院の特徴、病院建築の構成についての事項を理解させる。・病棟、診療部についての事項を理解させる。	
年		⑥ オーディトリウム	12	・特徴・音(騒音)・視線についての事項を理解させる。 ・断面計画についての事項を理解させる。	⑤~⑨ 試験
		⑦ 体育施設⑧ 商業建築	1.	・体育種目とコートとの繋がりについて事項を理解させる・商業建築についての基本事項を理解させる。	1 中心的大
	期	⑨ 駐車場	2 • 3	・モデュールと駐車計画について基本事項を理解させる。	

6 特記事項 授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四中亚时间	2	2	学 年	二年次
一般構造Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	田原 慶
		十年江时间	40	40	実務経験	無

学習の到達目標	一般構造で学んだ各構造形式(木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨造・その他の構造)の基礎事項を理解させる。
	・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅲ 構造 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科Ⅲ 構造 問題解説集』
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
<u> </u>	四/而平00/0/代侧
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

<u> </u>						
前期·後期	試験点数	80 %				
	学習活動への取り組み	20 %				
		%				
		%				

1 101 1 m c 2017 a a a a a a a a a a a a a a a a a a a							
仮評価	課題•提出物	80 %					
	学習活動への取り組み	20 %					
		%					
		%					

5 学習計画及び評価方法

		学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
	24.		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
	前	①鉄筋コンクリート構造	5	・鉄筋コンクリート構造の構造設計を学び、特有の破壊性状や、 柱・梁・耐震壁・スラブの構造設計上の留意事項を理解する。	
第			6	・各部の鉄筋比・定着長さ・継手方法や、コンクリートに生じるひび割れの原因を理解する。	①~② 試験
		②鉄骨構造	7	・鉄骨構造の構造設計を学び、座屈の原因と防止方法、柱・梁の 構造設計上の留意事項を理解する。	
_	-11-12		8	・柱脚の構造形式や、筋かいの考え方を理解する。	
	期		9	・ボルト接合方法・摩擦接合方法・溶接接合方法や、溶接継目の 許容耐力などの算定方法を理解する。	
27.6	<i>180</i> .	③その他の構造	10	・壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造の構造設計上の留意事項を理解する。	
子	後		11		
		④構造設計	12	・構造計算による安全確認について、1次設計・2次設計の過程を理解する。	3~5
年 			1	・構造設計上の層間変形角・剛性率・偏心率・保有水平耐力を理解する。	試験
	11 11	⑤構造全般	2	・建築物の平面・立面の構造計画や、耐震診断について理解する。	
	期		3	・荷重・外力、地盤・基礎構造、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の復習を行う。	

6 特記事項

授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四半位时间	1	1	学 年	二年次
建築設備Ⅱ	講義	講義年単位時間	前期	後期	教 員	玉城 恵美
			20	20	実務経験	有

	建築設備の中でも空気調和設備および電気・照明設備を講義する。 さらに安全で美しく快適な建築空間を計画する上で、設計、運営するための技術基 準を理解させる。
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科 学科 I 計画 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科 I 計画 問題解説集』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

- 1114 H 424214-	
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

- 1940分件 四 - 23 四 ((
前期·後期	試験点数	80 %					
	学習活動への取り組み	20 %					
		%					
		%					

仮評価	課題•提出物	80 %					
	学習活動への取り組み	20 %					
		%					
		%					

5 学習計画及び評価方法

	学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
	前		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
第		① 電気・照明設備	5 • 6	・電気設備における書類や項目について理解させる。・電圧の種別を確認し、供給方式を理解させる。・配線システムの種類と内容を理解させる。	① 試験
	期		7 8	・照明方式(直接照明及ぶ間接照明)の特徴を理解させる。・白熱灯、蛍光灯、水銀灯などの特徴を理解させる。・点光源と照度との関係を理解させる。	中心初失
学	後	② 消火•防災設備	10 • 11	・火災の種類について理解させる ・消火の原理及び消防用設備等の種類について理解させる ・防災設備,消防用水について理解させる	
年		③ 搬送設備④ 省エネルギー対策	12 • 1	・エレベーター設備の概要,配置計画について理解させる。 ・エレベーター設備の防災計画について理解させる。 ・エスカレーター設備の概要について理解させる。 ・エスカレーター設備計画や配置計画について理解させる。 ・その他ダムウェーター設備の概要について理解させる。	②~④ 試験
	期		2 • 3	・省エネルギーの指標である、外皮平均熱賞流率・平均日射熱取得率・パルスター・基準一次エネルギー消費量・省エネルギー性能評価を理解させる。 ・環境保全の指標である、GWP・LCCO2・LCA・CASBEE・BMSを理解させる。 ・省エネルギー手法を習得させる。	

6 特記事項

授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四 字 1 工 时 目	1	1	学 年	二年次
建築環境Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	玉城 恵美
		十年证时间	20	20	実務経験	有

学習の到達目標	建築分野における省エネについてアクティブな展開とパッシブな手段の見 直しといった両面を環境構成要素の基本的仕組みを見直し、その建築的な 調和を習得させる。
1 1 1 20/ N = 0 5 20/ N = 1	・日建学院『2級建築士学科 学科 I 計画 受験テキスト』 ・日建学院『2級建築士学科 学科 I 計画 問題解説集』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

	<u> </u>	,
前期•後期	試験点数	80 %
	学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

<u>, птоку вт шес</u> 2	c_{11}	13 0 2 1 5 / //
	課題•提出物	80 %
/京歌/本	学習活動への取り組み	20 %
仮評価		%
		%

5 学習計画及び評価方法

		学 習 内 容	月	学習のねらい	考査範囲
	盐		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
Forte:	前	① 伝 熱	5 • 6	・伝熱の移動のしくみを理解させる。・各種材料の熱伝導率を理解させる。・熱貫流率・熱貫流量・熱損失の計算方法を習得させる。・断熱設計の考えかたを理解させる。	
第二二	期		7 8	・熱環境チェックリストや熱と他の室内環境要素との繋がりを理解させる。	試験
学	後	② 結露	10	・湿度と結露の関係性を理解させる。 ・湿度について、絶対湿度・相対湿度・飽和状態について理解させる。 ・空気線図の使い方を習得させる。 ・表面結露・内部結露について理解させる。 ・結露防止方法を理解させる。	
年	期	③ 音 ④ 水	•	 ・騒音や室内環境に対する配慮の必要性を習得させる。 ・音の大きさや騒音と遮音について理解させる ・騒音対策や音響設計について理解させる ・設備騒音や音と他の室内環境要素との繋がりについて理解させる。・生活環境を形成する上で、必要不可欠な水を、建物とその利用効率などを習得させる。 ・水と建物との繋がりについて理解させる。 ・雨水排水計画について理解させる。 ・エネルギー媒体としての空気を、自然エネルギーとしての風、生活空間での換気に置き換えての機能を習得する。 ・空気と人間との関わり方、風、換気、自然通風について理解させる。 	②~④ 試験

6 特記事項

関連教科として、建築環境 I、建築計画 II、建築設備 II

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
		四半江时间 [3	3	学 年	二年次
建築法規Ⅱ	講義	年単位時間 中	前期	後期	教 員	具志 悦雄
			60	60	実務経験	有

学習の到達目標	建築物を計画、設計する上で必要な建築基準法、建築基準法施行令、都市計画法、建設業法、建築士法や関連法令も含め、改正がなされている事柄を踏まえながら講義。設計するために必要な基本的な技術基準を理解する。
使用教科書·副教材等	・日建学院『2級建築士学科学科 I 計画受験テキスト』『2級建築士学科学科 I 計画 問題解説集』・『建築基準法関係法令集』
教員実務経験	建築設計業務、建築施工管理

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

- 1114 H 424214	
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

<u> </u>	<u> </u>	
	前、後期試験成績	80 %
前期·後期	課題・学習活動への取り組み	20 %
削剂 仮剂 		%
		%

<u>, писл</u>	CI) DUCK CURT (1 M1)	1102011
仮評価	課題•提出物	80 %
	学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

	学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
	<u> 44</u> .		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
	前	 構造強度 防火 	5	・構造関係規定の構成、構造方法、構造計算を理解させる。 ・法22条指定区域内の建築制限について理解させる。 ・防火壁、耐火、準耐火建築物について理解させる。	①~6 =AFFA
第		③ 避難施設等	6	・防火区画等について理解させる。 ・適用の範囲、廊下及び直通階段、避難階段について理解させる。	試験
		④ 道路⑤ 用途地域	7	・道路の定義および構造、道路と敷地との関連性について理解させる。・用途地域内の建築物について理解させる。	
	期	⑥ 面積制限	8 • 9	・容積率、建ペい率等の算定方法について理解させる。・第1種、第2種低層住居専用地域内の建築制限について理解させる。	
学		⑦ 建築物の高さ	10	・道路斜線、隣地斜線、北側斜線等について理解させる。・日影による中高層建築物の高さ制限について理解させる。	
		8 防火地域·準防火地域	11	・防火地域・準防火地域への建築制限について理解させる。 ・その他地区、地域内等の建築制限について理解させる。	
年		その他の規定	12	・建築協定や地区計画等の区域制限,一定の複数建築物に対する制限, 簡易な構造建築物に対する制限の特例について理解させる。	⑦~⑩ 試験
		⑨ 建築士法·建設業法	1	・仮設建築物、応急仮設建築物および既存不適格建築物に対する制限の特例, 工事現場の危害防止について理解させる。・士法の目的、定義について、建築士 でなければできない設計又は工事監理および業務内容等について理解させる。・	
		⑩ その他の法律	2 • 3	業法の目的、定義について理解させる。・建設工事における請負契約等について 理解させる。・消防法、消防法施行令および都市計画法や開発行為の許可につ いて理解させる。・品確法、などを中心にその他法に関することについて理解させ る。	

6 特記事項

授業は、テキストにより進め、図やイラストレーショを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間 年単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
	講義		2	2	学 年	二年次
建築積算			前期	後期	教 員	具志 悦雄
			40	40	実務経験	有

学習の到達目標	建築数量積算基準に基づく土工、躯体の数量を鉄筋コンクリート造の設計例(設計図書)を用いて数量の拾い出し方を講義する。 さらに、積算の基本的な考え方や利用方法等について取りまとめ、積算業務の効率化や適正化の技術的基準を理解する。		
使用教科書·副教材等	・学芸出版社『初めての建築積算』		
教員実務経験	建築設計業務、建築施工管理		

2 追試験基準

_ ~ r ***	
前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

	-
前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

- /94/D(F) IPP - /		
前期•後期	前、後期試験成績	80 %
	課題・学習活動への取り組み	20 %
		%
		%

仮評価	課題•提出物	80 %		
	学習活動への取り組み	20 %		
		%		
		%		

5 学習計画及び評価方法

		学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
	前		4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	
第	刊	① 概要 ② 土工	5 • 6	・積算の種類及び工事費の構成について理解させる。・積算方式及び数量の計算について理解させる。・土工の数量の拾い方を理解させる。	①~③ 試験
	期	③ 鉄筋コンクリート造の積算コンクリート数量	7 8	・コンクリートの数量の拾い方を理解させ、基礎、柱、はり、床版、壁、階段、その他の各部分ごとの数量について行う。	萨 人砌火
学	後	型枠の数量	10 • 11	・型枠の数量の拾い方を理解させ、基礎、柱、はり、床版、壁、階段、その他の各部分ごとの数量について行う。	
年	期	⑤ 鉄筋の数量	12 · 1 · 2 · 3	・鉄筋の数量の拾い方を理解させ、基礎、柱、はり、床版、壁、階段、その他の各部分ごとの数量について行う。	④~⑤ 試験

6 特記事項